

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0172000259), 法人名 (三愛商事株式会社), 事業所名 (グループホーム里の家 すずらん), 所在地 (北海道小樽市桂岡11-13), 自己評価作成日 (平成27年12月10日), 評価結果市町村受理日 (平成28年2月2日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_2015\_022\_kani=true&JigyosyoCd=0172000259-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (有限会社 ふるさとネットサービス), 所在地 (札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階), 訪問調査日 (平成28年1月18日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし、信じ合える希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したものとなるよう配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事、地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた昔の自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、入居者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆっくりと関わりをもち、落ち着いた環境でコミュニケーションを図っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小樽市銭函地区の住宅地にある一部2階建て3ユニットのグループホームです。大型スーパーや郵便局などがある国道5号線から徒歩で行ける場所にあり便利です。理念の中にある「地域に愛され馴染みある生活の継続ができる家」を実現しています。具体的には、地域の様々な行事に参加したり、楽器演奏や踊りのボランティアが頻りにホームを訪れています。桂岡小学校の入学式や運動会、学芸会など各種行事に招待を受けて参加しています。自分のできることを自分で行う生活を支援すべく取り組んでおり、利用者が明るく活動的に過ごしています。また、職員は利用者や家族に対して穏やかで優しく対応しています。法人の様々な支援体制が整い、社員研修の実施やマニュアル、契約書類等が整備され、本社によりホーム便りの作成や送付、バスの提供、職員面談なども行われています。食事の面では、各ユニットで独自のメニューをつくり、それぞれの食事を写真に撮り、法人内の他のグループホームと競っています。外出の面では、日常的に散歩や買物に出かけるほか、週2回は法人のバスが利用でき、気軽にドライブに出かけています。年間行事では天狗山や手宮公園での花見、定山溪や朝里ダムでの紅葉狩り、初詣、雪まつり見物などに出かけています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取組の成果 (↓該当するものに○印), 項目, 取組の成果 (↓該当するものに○印). Rows 56-62 describe service outcomes for staff, user interaction, and user well-being.

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に理念の唱和を行い、意識を高めている。 入居者様やホームが地域に愛され馴染みのある生活を送れる事が実感できる様、定期的に話し合い、実践している。	理念の中に「地域に愛され馴染みある生活が継続できる家」という文言を入れ、地域密着型サービスの意義を踏まえ作成しています。理念を掲示し、毎日唱和して共有しています。その他に、各ユニット毎の目標を立てています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のお祭りや文化祭、小学校の各種行事に参加したり、子供達が学習の一環としてホームに来られている。又、ホームのお祭りや消防訓練にも沢山の地域の方々に参加される。 高等聾学校からの就業実習も受け入れている。	町内会に「里の家」担当の方がおり、地域の行事で活発な交流ができています。楽器演奏や踊りのボランティアが頻りにホームを訪れており、桂岡小学校の入学式や運動会、学芸会など各種行事に招待を受け、参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に出た時に、認知症についての質問に答えるようにしている。 小学校の訪問交流により、認知症の方の理解にも繋がっている。 地域の集まりの際にお話しする事もある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の開催をしており、各関係者様方(地域包括、民生委員、消防、ご家族、地域住民等)との話し合いも円滑で実りあるものとなってきている。 又、ホームの役割や取組について理解いただき、意見も頂いている。	会議は2ヶ月毎に開催され、市や地域包括支援センター職員、町内会役員、民生委員、社会福祉協議会職員、複数の家族の参加を得て多様なテーマで話し合い、活発な意見交換がなされています。議事録を家族に送付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	保護課の方とも受診等、密に連絡を取っている。 新入居者様の生活歴等も詳しく引き継いで頂き、ケアに活かしている。 関係各所に里の家便りをお届けし、取り組みをお伝えしている。	運営推進会議に市や地域包括支援センター職員の参加を得て情報提供を受けるほか、入居者情報や里の家便りを市の担当者に毎月届けています。市内や地域の介護関係の講習会でも市の担当者と情報交換する機会があります。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を行い、意識を高めている。又、日頃からユニット内で話し合いをもっている。 防犯上施錠はしているが、施錠は感じない様に取り組んでいる。歩行困難により居室に布団を敷いておられる方もいるが、自由に動ける感覚でいれる様に努めている。	身体拘束防止に関するマニュアルを用意し、年1回勉強会を行っています。職員は身体拘束防止に関する外部研修にも参加しています。玄関は施錠していますが、利用者が自ら開錠できるようになっています。外出を見守りで察知し、一緒に付き添っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士で注意し合える関係を築いており、小さな身体変化も見逃さないようにしている。内部研修にて虐待について学んでいる。又、グレーゾーンになるのではないかとと思われる事は気付き次第スタッフ同士で話し合い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフは講習を受けており、家族様に説明できるようにしている。しかし、まだ十分な知識には及んでおらず、さらなる研修を受けていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する前の面談を含め、十分に説明の時間を取っている。 改定の際は書面での説明を郵送し、電話にて細かな説明をさせて頂き、ご理解納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	小さな訴えや不満等にも耳を傾ける姿勢をとっており、明らかに苦情と思われる事は速やかに所定書式にて管理者及び本部に提出し、迅速丁寧な解決に取り組んでいる。 施設内にポスターを掲示している。	月2回以上の来訪がある家族が多く、その際に意見を聞き、得られた意見を「対応記録簿」に記録し、共有しています。毎月「里の家だより」を作成し、家族に提供しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のユニット会議・月1回の合同会議で直接会社で意見を述べる機会がある。 スタッフのお花見、忘年会には本社職員も参加し、職員が直接意見を伝える事が出来ている。	月2回のユニット会議と、全社のリーダーや管理者が集まる月1回の合同会議で活発に意見交換しています。職員はユニットリーダーや管理者と定期的に面談しています。本社職員が頻繁に来訪し職員がいつでも相談できます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望や研修が自由に出来る様に整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修のお誘いは沢山あり、参加した職員は内容を報告する義務がある。月に一度、本社職員による内部研修、毎月のケース検討や自己評価に関する研修を行っている。年初めにスタッフの個人目標を掲げ適時見直し、達成度を確認している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	実践者研修の受け入れを行っている。又、地域の同業者との親睦会にも参加し、ネットワーク作りをしている。小樽市内のGHの相互訪問を実施している。その他、随時見学の受け入れを行っている。地域の主催する研修会にも参加している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者や計画作成担当者が面談を行ない、移行がスムーズに行える様話し合っている。入居後、入居者が落ち着いてお話しできる様になった頃にゆっくり耳を傾ける時間を持つように努めている。ご家族から、ご本人様の要望を伺う機会も設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者や計画作成担当者が面談を時間を掛けて行ない、移行がスムーズに行える様話し合っている。ご家族の細かな希望等も伺い、ホームでの生活が円滑に継続出来る様に努めている。ご家族と入居者様の関係が良好に継続できる様、協力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者や計画作成担当者が面談を行ない、移行がスムーズに行える様話し合っていると共にご家族様にご理解を頂き、ゆっくり時間をかけて慣れて頂いている。医療やリハビリ等迅速に対応出来る様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に仕事をしたり、行事等を楽しんだり、談笑する時間を作っている。 又、入居者様に生活の知恵を伺い、一緒に実践する場を設け、共に生活している様に感じられる環境を作っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と協力しご本人様を支える為に職員が出来る事をさせて頂く、という考え方でご家族と話し合っている。職員とご家族様との関係が良いのが特徴。ご家族様が行事に参加しご本人の介助(車椅子、食事)をして笑顔する姿が見られている。		
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へ行ったり、友人と会ったり希望に応じる様にしている。友人に連絡したい時はご家族様の許可を得て、連絡して頂いている。 地域の行事に参加して頂き、馴染みの方々と昔話を出来る時間を持てる様、支援している。	近所から入居した利用者に対して友人や知人が毎月来訪しています。電話のやりとりも支援しています。家族や職員の送迎で行きつけの美容院に通ったり、馴染みのスーパーや喫茶店、商店街などにも出かけています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲よし同士でお話や仕事をする空間は確保されている。認知能力やADLの違いが原因で寂しい思いをしない様、何を話されても職員が普通の事、と接し、その方が頑張っている事等を話し、尊敬の念を示す事で仲間として認め合って暮らしておられる。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様とは友人としての関係が続いている。ご家族様が里の家祭りにも参加され退居後のお話を伺い、相談を受ける事もある。継続して運営推進会議に参加されるご家族様もおられる。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様やご家族様の言葉や行動・表情等、職員間で常に情報交換し、新しいニーズの発見に努めている。入居者様本位の生活をして頂く事を置く様、常に話し合い、実践している。	3分の2ほどの利用者は言葉で思いや意向を表出でき、難しい方の場合も表情や仕草、過去の経験から把握しています。センター方式のアセスメントシートを3か月毎に更新し、情報を共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔の話を沢山聞く事に時間をとっている。ご家族様が気軽に話せる人間関係を作り、沢山の情報を頂くようにしている。又、把握の難しい方に関しては入居前の担当ワーカーより情報を頂き、ホームでの生活に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守りを大切にし、一日の生活のリズムや身体状況等を把握する事に力を入れている。入居者様とお話する事で、表情による心の状態の把握に努めている。さらに、新しい事にも挑戦して頂き、有する力の最大値を見極める様にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様の意向を介護計画に取り入れる為、ご家族様と一緒にプランを考える機会を持ち、職員が代弁者となって入居者様が「何をしたいのか」を考えプランに活かしている。「今迄通り」にも少しづつの変化がある事に注目している。主治医の意見も参考にしている。	介護計画を3ヵ月毎に更新しています。ケアカンファレンスで計画の評価を行い、意見を集約して計画を見直ししています。介護経過記録は、介護計画に沿ってプラン番号を記入しながら目標に沿った記録を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日一人一人に対して目標を設定して、計画が実践されているか記録している。入居者様との会話や気づき、疑問に感じたこと等、記録し、プランの見直しをしている。出勤時に申し送りノートや介護記録に目を通し、情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様や入居者様のニーズ(主に身体の変化)に対応している。 本人様希望の買い物等の個人対応にも柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練等に地域や消防の協働を頂いている。 日舞、ハーモニカ、フラダンス等地域のボランティアの協力で心身共に楽しんでいる。町内会に「里の家係」があり、お祭り等のお手伝いをして下さったり、災害時の連絡網も作って下さっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の他に家族様や本人の希望で受診を行っている。 提携医院とは24時間電話対応出来、必要に応じて看護師が来設している。入院対応についても主治医と連携し、スムーズに行っている。	ほとんどの利用者は協力医による定期往診を受けており、その他のかかりつけ医への通院もホームで支援しています。受診内容を業務日誌に記載し共有していますが、個人ごとの受診歴はやや分かりづらい面があります。	時系列的に個々の受診内容が把握できるよう、利用者毎の受診記録を整備することを期待します。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の看護職員と随時連絡可能となっており、適切な受診や看護につなげている。 4月から訪問看護が週に一度来訪しており、気軽に相談でき、さらに適切な看護を受けられる様になった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様同行で医師との面談の機会を持ち、意向を伝えている。入院時は面会にも訪れて、その都度、看護師やご家族様より情報を得て早期に退院出来る様努めている。病院は早く退院して通院で対応する等考慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアの経験があり、対応する準備は出来ている事はご本人・ご家族様に伝えるが、最終的にはご本人・ご家族様・主治医との話し合いで決める事である為、その決定に従い全面的に支援する心構えを確認し合っている。訪問看護ステーションの協力も得られている。	重度化した場合の指針を重要事項説明書に載せて説明し、書類を取り交わしています。開設後看取りを行い、経験を積んでいます。今後も希望に沿って看取り支援を行う方針としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、応急手当等の訓練を定期的に行っている。転倒事故やヒヤリハットが起こった際、応急手当や初期対応について話し合っている。内部研修でも議題となるので、都度、シミュレーションしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署参加の消防訓練を行い、指導して頂いている。町内会では災害時の緊急連絡網があり、協力体制も整えている。スタッフのみでシミュレーションを行い、さらに半年に一度、防災訓練を行い、より迅速な避難をする研修も行っている。	年2回、消防や地域の協力のもと昼夜を想定した避難訓練を実施しており、その他に自主訓練も行っています。救急救命訓練も職員全員が受講しており、災害時に必要な備蓄品も用意しています。	
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや人格を尊重した対応に心がけ、職員同士が注意し合い実践している。ホーム内では勿論だが、外に出ても充分気をつける様、話し合っている。研修も行い、初心に戻れる様にしている。	利用者の呼びかけは「さん」づけを基本としています。接遇や人格の尊重などに関する研修も行っています。ファイル類は事務所で適切に管理し、申し送りの際にイニシャルを使うなど、プライバシーに配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の全ての場面で選択や決定を自由に出来る様支援している。意見を押し付ける様な事は職員は勿論、入居者様にもない様に見守っている。思いを表現しづらい入居者様は表情に気を配り、思いを汲む様に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	職員は自分たちの都合ではなく、利用者様の都合で動くことを徹底している。入居者様も自由に生活する事が当たり前と思っておられる。起床時間や就寝時間等も希望に添って生活して頂けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	プライドに配慮しながら整容や着替え等の支援を行っている。馴染みの訪問理美容院で毎月希望に合わせたカットや毛染め、パーマをしている。又、お気に入りの衣装を着られた方にはお声を掛けている。衣類購入も希望に添ってされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューや買い物等、協力して頂いたり下ごしらえの段階でお手伝い頂いている。一部に限られているが、食器拭きも手伝って頂いている。研修も行い、他ホームの支援を参考に楽しんで頂ける様努めている。歩行の安定されている入居者様は下膳もされる。	食材の買物や下ごしらえ、味付け、食器洗い、食器拭きなどを利用者が手伝っています。誕生日には個々の好みものを聞いて提供しています。月に1回、パンや中華などのバイキングも楽しんでおり、その他に毎月外食にも出かけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量に個人差があるので、個別の対応をしている。おやつやあんパン等を利用し、不足分を補えるようにしている。その他、水分摂取しやすい様な声掛け、環境づくりや摂取しやすい形(ゼリー、甘み等)にする等気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人様の能力に応じて声掛けや支援を行っている。 変化があった場合、歯科医の往診を受けている。定期的な訪問診療で口腔の変化にも気を付けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失敗で傷ついたり、回数が多い事を気にしない様に出る事が良く、嬉しい事と入居者様に思ってもらっている。表情や排泄パターンを読み取って誘導し、自立に向けた支援を行っている。自力でトイレへ行かれる入居者様はさりげなく下着交換をして頂いている。	半分ほどの利用者は自力でトイレに行くことができ、誘導が必要な利用者は、プライバシーに配慮しながら誘導しています。トイレでの排泄が難しい方はベッド上で排泄用品の交換を行っており、個々の身体状況に応じた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘により落ち着かなくなる事やなぜ便秘になるのか個別に考え、入居者様に合わせた対応をしている。食事と水分補給の他、毎日体操をしたり、ドライブ等行なっている。主治医との連携を密にし、下剤の調整も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	本人様の希望やタイミングを考慮して行っている。体調を見ながら希望に添った入浴をできるようにしている。 入浴が億劫と感じる入居者様には表情を見ながらいつでも対応出来る様に環境を整えている。	毎日入浴することが可能で、利用者が2回以上入浴するように支援しています。入浴を拒否む利用者は毎日清拭しています。同性介助や複数による介助など利用者の安心に配慮し、風呂上りに冷たい飲み物を用意し、入浴を楽しめるようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息は個人個人の自由で取れるようになっている。ソファで横になって休む入居者様もおられる。時間を決めず、個人のリズムに合わせた睡眠を取れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅療養管理指導もあり、薬の情報がいつでも見られる様になっており、従来服薬している部分は把握している。新しく処方された薬について、全員で申し送りを行い確認している。又、バイタル表も活用し症状の変化を医師に報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いや役に立っていると思う事に喜びを感じて下さる方には、感謝しながら頼りにしている事をお伝えしている。外食・買い物、ドライブがお好きな方が多いので機会を多くしている。歌番組がお好きな方も多くDVD鑑賞を取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出がお好きな利用者様は毎日でも出掛けられる様支援している。又、利用者様の希望を伺い、可能な限りドライブにも出掛けている。受診の帰りや希望時には買い物の支援をしている。ご家族様と自由に外出できる環境も整えている。	日常的にホームの庭や畑、近くの畑などへ散歩に出掛けています。週2回、法人のバスを利用し、大勢で気軽にドライブに出かけています。年間行事では天狗山や手宮公園での花見、定山溪や朝里ダムでの紅葉狩り、初詣、雪まつり見物などに出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様のご希望があれば、ご家族様と話し合い、所持する事を承認して頂いている。買い物時にレジで支払って頂く機会を作っている。自販機での買い物も支援している。スタッフに依頼される事が多いが、なるべくご一緒できる環境を整えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は誰でも自由に掛けられる様支援している。手紙は一部の方が実行されている。手紙を書かれる方はいらっしゃらないが、ご家族からの手紙やFAXは楽しみにされている。スタッフがご家族様に電話する際はご本人にもお話がないか伺う様にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	見守りながら混乱や不快感がないよう、支援している。温度や音は特に気を配る様、注意し合っている。里の家便りを食堂に掲示し、季節感や生活感を感じて頂き、行事を思い出して頂いている。研修も行い、さらに居心地が良くなる様に努めている。	居間や食堂は家庭的な調度品があり、落ち着いた絵画や見やすい時計、ぬいぐるみや遊び道具などが配置されています。ソファを各所に配置し、利用者がくつろぎやすくなっています。温度や湿度も調整されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子を多めに配置している。他入居者様から目立ちづらい場所にも椅子を設置しており、落ち着ける様子も見られてる。2階と1階に共有スペースがあるので、良い状態を保っている。日中はホールにおられる事が多く、「私の居場所」と感じて頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様のご協力を頂いて、馴染みの家具や思い出の写真を用意している。利用者様のお好きな飾り物や家具も追加している。居室の様様替え等、ご家族に協力して行っている。ご本人様がホームで作成した飾り物を置く方もおられる。	居室はテレビやベッド、仏壇など馴染みの家具や生活用品、鉢植えなどが持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっています。壁にも利用者や家族の写真、カレンダー、ポスターなどを自由に飾り付けています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新しく入居された方には灯りや目印、道順の案内テープ等で居室・トイレ等、分かりやすくしている。長く入居されている方達は迷われないが、伝える物を増やし歩行が出来る様にしている。歩行不安定な方も二人支援にて安全に階段を昇降して頂いている。		